

沖縄方言における疑問の文末詞「バ」の意味と用法について

20232024 島袋 涼

1 はじめに

1.1 目的

沖縄県で使われる疑問の文末詞の一つに「バ」がある。「バ」は文の終わりに置かれ、主に相手に疑問を示す働きをもつ。「ガッコー イクバ(学校行くの?)」「サムイバ(寒いの?)」「アノヒト ユーメーダバ(あの人有名なの?)」のように、動詞・形容詞・名詞など幅広い語に付けられるのが特徴である。

一方で、発表者自身(沖縄県出身)の内省では、「バ」はどの場面でも使えるわけではない。例えば、勧誘の意味で「アシタ ゴハン タベニ イカナイバ(明日ご飯食べに行かない?)」というの是不自然だが、一度誘いを断られた後など、状況によっては使うことができる。このような直観的な使い分けが他の話者にも見られるのか、また共通の傾向があるのかは明らかでない。

なお、先行研究では「バ」について詳細な分析は少ないものの、野原(1996)や尚、佐々木、狩俣(2013)から、1988年と2009年から2010年の時点で沖縄県内ですでに「バ」が使われていたことが確認できる。

本研究では、沖縄県における疑問の文末詞「バ」の使用度と認知度を調べ、さらに「バ」がどのような場面で使われ、どのような機能をもつのかを明らかにすることを目的とする。また、使用者の性差や世代差、語源的な問題は今後の課題とし、本発表では扱わないこととする。

1.2 先行研究

沖縄県以外の地域における文末方言「バ」に関する研究として田附(2011)をあげる。青森県五所川原市方言における質問の文末形式「バ」の用法と意味・機能について記述したものである。内容をまとめると以下ようになる。

- ・「バ」は主に疑問詞疑問文で用いられる文末形式である。
「バ」にとって疑問詞の存在は必要条件であるが、疑問詞疑問にとって「バ」自体は必須でない。真偽疑問文では不自然であり、使用されない傾向がある。
- ・「バ」を伴う文はややくだけた印象を与え、親しい関係でのみ使用される。
- ・「バ」は問いかけ性を示すもので、判断材料の欠如が使用条件である。

「バ」は、話し手が判断材料を持たないために聞き手から情報を求める機能をもつ。したがって、話し手自身の記憶を詮索する文や、話し手が答えを知っている場合、または自分の意志が含まれる勧誘表現などでは用いられにくい。

2 方法

沖縄県における疑問の文末詞「バ」の使用状況を調べるため、SNS アンケート調査と聞き取り調査を実施した。

2.1 SNS アンケート調査

本調査は、個人の Instagram や沖縄県立具志川高等学校へ調査協力を依頼し、実施した。年齢や性別、居住地域、日常生活における「バ」の使用経験や使用者の属性、「バ」を用いた例文などを尋ねた。実施期間は 2024 年 10 月 28 日から 11 月 10 日である。回答者には沖縄県での在住歴や居住経験の有無を確認し、そのうち沖縄県在住、または居住経験のある人の回答を分析対象とした。本研究では、特に「バ」の認知度と使用度に焦点を当てて考察を行う。

2.2 聞き取り調査

聞き取り調査は二回行い、個人の Instagram で協力を呼びかけ、日常的に「バ」を使用する沖縄県出身者を対象とした。第一回調査では、各疑問文の種類ごとに例文を用意し、それぞれの文に「バ」を付けた場合の違和感の有無や印象を尋ねた。その結果を踏まえ、第二回調査では質問項目を修正し、文脈や使用場面に注目して実施した。第一回調査は 2025 年 6 月 4 日から 6 月 6 日にかけて行い、第二回調査は 2025 年 10 月 16 日から 10 月 19 日にかけて行った。

3 調査結果

3.1 SNS アンケート調査

本調査では、沖縄県在住者または居住経験のある 355 名の回答を分析対象とした。その内訳は、女性 297 名、男性 54 名、無回答 4 名。年齢層は 10 代が 216 名、20 代が 54 名、30 代が 34 名、40 代が 40 名、50 代が 11 名。これらは〔表 1〕と〔表 2〕にまとめた。

また、日常生活の中で「バ」を耳にしたことがあると答えた人は全体の 9 割以上にのぼり〔表 3〕、自身が「バ」を使用することがあると答えた人も全体の半数を超えていた〔表 4〕。このことから、回答者層は女性および 10 代に偏りがあるものの、沖縄県における「バ」の認知度の高さと、日常的に使用されていることが明らかになった。

〔表 1〕回答者の年代

〔表 2〕回答者の性別

10代 (12歳～19歳)	216
20代 (20歳～29歳)	54
30代 (30歳～39歳)	34
40代 (40歳～49歳)	40
50代 (50歳～53歳)	11
合計	355

女性	297
男性	54
無回答	4
合計	355

〔表 3〕 日常生活で「バ」を耳にしたことがあるか

はい（聞いたことがある）	343
いいえ（聞いたことがない）	12
合計	355

〔表 4〕 自身が「バ」を使用することがあるか

はい（使うことがある）	206
いいえ（使うことはない）	149
合計	355

3.2 第一回聞き取り調査

第一回調査では、各種類の疑問文について例文を作成し、その文末に「バ」を付加しても文がそのままの意味で成り立つかを尋ねた。例文は全て発表者の自作である。対象者は7名全員が20歳（2025年6月時点）で、日常生活で「バ」を聞いたことがあり、使うこともある。結果は〔表5〕にまとめた。

（文頭の「#」は当該の文脈では成立しないことを表す）

〔表 5〕

	例文	男1	女1	女2	女3	女4	女5	女6
疑問詞疑問	昨日何してたの？	○	○	○	○	○	○	○
	キノー ナニ シテタバ							
YES/NO疑問	今日バイトあるの？	○	○	○	○	○	○	○
	キョー バイト アルバ							
選択疑問	①カフェ行く？それとも映画行く？	×	×	×	*	*	×	×
	#カフェ イクバ ソレトモ エーガ イクバ							
	②歩いて行ったの？それとも電車で行ったの？	○	○	×	○	○	×	○
	アルイテ イッタバ ソレトモ デンシャデ イッタバ							
感嘆を含んだ疑問	ええ、どれだけ食べるの？	○	○	○	○	○	○	○
	エェ ドレダケ タベルバ							
同意を求める疑問	今日テストだよ？	×	×	×	×	×	×	×
	#キョー テスト ダバ							
呼びかけ疑問	おい、どこ行くの？	○	○	○	○	○	○	○
	オイ ドコイクバ							
勧誘	一緒にご飯食べに行かない？	×	×	×	×	×	×	×
	#イッシュヨニ ゴハン タベニ イカナイバ							
依頼	それ取ってくれない？	×	×	×	×	×	×	×
	#ソレ トッテ クレナイバ							
答えを期待しない疑問	なんでこんなに暑いの？	○	○	○	○	○	○	○
	ナンデ コンナニ アツイバ							

○：「違和感がない」

×：「違和感がある」

※：「状況や文脈によって自然にも不自然にも感じられる」

【1】疑問詞疑問、YES/NO 疑問、感嘆を含んだ疑問、呼びかけ疑問、答えを期待しない疑問は、全員が疑問の文末詞として「バ」を使用しても違和感がないと答えた。

【2】選択疑問文における「バ」の使用については、以下の傾向が見られた。

- ① 「カフェ行く？それとも映画行く？」という文については、七名中五名が「違和感がある」と回答した。残る二名（表中の※）は「状況によって異なる」と答え、文脈によって使用の可否が分かると述べている。具体的には、第三者が A と B の行動を尋ねる場合（例 1）では使用可能であるが、話し手自身が会話に参加している場合（例 2）では不自然に感じるという意見であった。
- ② 「歩いて行ったの？それとも電車で行ったの？」という文については、七名中五名が「違和感がない」と回答した。

（例 1）〈第三者が B と出かける予定の A に対して尋ねる場合〉

「(B と) カフェ イクバ ソレトモ エーガ イクバ？」

（例 2）〈話し手が友人と行き先を相談している場合〉

「カフェ イクバ ソレトモ エーガ イクバ？」

【3】単なる同意を求める場合として疑問の文末詞「バ」を用いることについては、全員が違和感があると回答した。一方で、予期しなかった出来事や驚きを伴う確認（例 3）、あるいは単純な疑問（例 4）の場合には、「キョー テスト ダバ」を自然に使用できるという回答が多くみられた。ただし、この場合の「キョー テスト ダバ」は、共通語における「今日テストだよな？」のような同意要求の意味ではない。

（例 3）

（テストがないと思っていたのにあった場合）

ア：今日テストだよー

イ：ハ！！ キョー テスト アルバ？！

（例 4）

（テストの有無を尋ねたい場合）

ア：キョー テスト アルバ？

イ：あるよー

【4】依頼や勧誘を表す疑問文については、全員が「バ」を用いることに違和感を感じた。

「イッショニ ゴハン タベニ イカナイバ?」のような勧誘文は、単に相手を誘う意図では自然でないとされた。しかし、何名かの話者は、相手が行かないことを聞いた際に驚きなどの感情を含みながら確認をする場合(例5)であれば使用できると答えた。また、「ソレ トッテ クレナイバ?」のような依頼文についても、全員が通常の依頼表現としては不自然としつつ、「取ってくれると思っていたのに、取ってくれなかったとき」に不満や確認の意味(例6)で使うと回答した。

(例5) ア: 今日のご飯 17時からだよなー?

イ: 今日、私行かないよ

ア: エ、 キョー イッショニ ゴハン タベニ イカナイバ?

(例6) (アの手が塞がっている時に)

ア: ねえ、その本とってくれない?

イ: 無理

ア: エ、トッテ クレナイバー

3.3 第二回聞き取り調査

第二回調査では、特に文脈の違いと話し手の関与に焦点を当てて調査項目を修正した。

「バ」を含む疑問文の例文を提示し、それが自然であるか、またどのような場面で使用されるかを質問した。例文は全て発表者の自作である。対象者は第一回調査の七名に、40代の男女を加え計十名。結果は〔表6〕にまとめた。

〔表6〕

	機能・意図	例文	男1	男2	女1	女2	女3	女4	女5	女6	女7	女8
情報を探ねる (事実確認: 過去と現在)	過去の事実確認	キノノ ノミカイ ナンジマデ ダツタバ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現実の事実確認	キョー バイト アルバ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択疑問 (共同決定と第三者事実確認)	共同決定	#カフエ イクバ ソレトモ エーガ イクバ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	第三者の行動確認	Bサン アルイテ キタバ デンシャデ キタバ	○	△	○	△	△	○	○	○	○	○
同意要求	同意	#キョー テスト ダバ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	驚きを伴う確認	エ キョー テスト ダバ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
依頼・勧誘	依頼・勧誘(初回)	#ソレ トッテ クレナイバ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	依頼・勧誘(再確認)	ネエ ホントニ トッテ クレナイバ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
驚き・感情表出 (答えを求めない疑問)	感情表出・驚き	エ アンタ エンソクダバ ドーショー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不満表出	ナンデ コナ アツイバ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○: 「違和感がない」

×: 「違和感がある」

△: 「自分では使わないが文としては成り立っている」

【1】情報を探ねる文では、「バ」を使用することに対して回答者の全員が自然と感じた。

- 【2】①「カフェ イクバ ソレトモ エーガ イクバ」のように話し手自身が含まれる場合は全員が不自然と答えた。しかし、②「B サン アルイテ キタバ ソレトモ デンシャデ キタバ」のような第三者の事実確認では自然と感じる回答が多かった。
- 【3】「今日テストだよな？」のような同意要求では不自然とされたが、「エ キョー テスト ダバ」のように驚きを伴う確認では自然と感じる回答が多かった。
- 【4】依頼文では初回の要請時に「バ」を使用することは不自然と感じる人が多かったが、断られた後などの再確認の場面では自然とする回答が増えた。口頭で聞いた勧誘文についても同様に、「行くと思っていたのに行かない時」などの確認で使用されやすい傾向が見られた。
- 【5】驚きや不満などの感情を表す場面で「バ」を使用することは、回答者の全員が自然と感じた。
- 【6】また、20 代と 40 代の回答者の間で使用傾向に大きな差は見られなかった。

疑問詞疑問や事実確認疑問など、「キノー ナニ シテタバ」や「キノーノ ノミカイ ナンジマデ ダッタバ」のような情報を尋ねる文については、ほとんどの回答者が自然と感じた。これらの文では話し手自身の行動が関与しておらず、純粹に話し手の知らない情報を求めている場面であるため、「バ」は疑問標識として機能していると考えられる。しかし、同じ疑問文形式であっても、選択疑問、同意要求疑問、依頼・勧誘疑問では状況によって「バ」の使用が限られた。

4 状況によって使用が限られる文末詞「バ」

4.1 選択疑問から分かる「バ」の機能

選択疑問では、(例 7) のように話し手自身を含めて行動を共同で決定する場面では、全員が不自然と答えた。一方で、(例 8) のように話し手が関与しない第三者の事実確認では自然と感じる回答が多かった。この対照的な結果から、「バ」は話し手自身が行動に関与しない場合には自然に使用されるが、話し手自身を含む場合には不自然になる傾向があることが分かる。また、話し手自身を含む場合に「カフェ イクバ ソレトモ エーガ イクバ」を使用することが可能かどうか尋ねたところ、「候補があるのになかなか決まらない状況で「結局どうするの?」という意味で使う」という回答が多く、「相手に判断をゆだねる」、「少しいら立ちやあきれの気持ちを込める」といった意見も見られた。したがって、質問に話し手自身の行動が関与する場合「バ」は単なる選択提示ではなく、決定がつかない状況に対する感情表出の機能を併せ持つことが分かった。(例 8) は、話し手自身が関与しない、単に

事実を確認するための疑問であるため自然であるとの回答が多かったと考えられる。このことから、選択疑問であるかどうかではなく、質問内容に話し手自身の行動が含まれるかどうか「バ」の使用に影響していると考えられる。

(例 7)

場面説明：あなたは友達とこれから行く場所を一緒に決めている。まだ何も決まっていない。

#「カフェ イクバ ソレトモ エーガ イクバ」

(例 8)

場面説明：あなたは A さんに、B さんがどうやって来たかを尋ねている。

「B サン アルイテ キタバ ソレトモ デンシャデ キタバ」

4.2 同意要求疑問から分かる「バ」の機能

同意要求疑問では、「今日テストだよな？」に相当する「キョー テスト ダバ」は全員が不自然と答えた。一方で(例 9)のように驚きを伴う確認として提示した場合は自然と感じる回答が多かった。この結果から、「バ」は同意要求を表す要素としてのはたらしはなく、話し手の予期しない事態に対する驚きや確認の感情を表す機能を持つことが明らかになった。

(例 9)

場面説明：あなたはテストがあると知らなかったが、友達の発言で初めて知って驚いた場面。

「キョー テスト ダバ」

4.3 依頼・勧誘疑問から分かる「バ」の機能

依頼・勧誘疑問においても同様の傾向が見られた。(例 10) のような初回の依頼文では全員が不自然と感じたが、(例 11) のように一度断られた後の再確認では自然であると回答した。さらに、口頭で聞いた勧誘についても、一発目の誘いでは「バ」を使用することは不自然であるが、断られた時や「行くと思っていたのに行かない時」など、期待していた事態と異なる場面での使用が自然であるとの意見があった。ここでの「バ」も、単なる依頼・勧誘ではなく期待と現実とのずれに対する感情的反応として機能していると考えられる。

(例 10)

場面説明：あなたは友達に初めて「それ取ってくれない？」と頼む。

#「ソレ トッテ クレナイバ」

(例 11)

場面説明：一度頼んだが断られた。その直後、少し不満を伴って再確認する場面。

「ネェ ホントニ トッテ クレナイバ」

5 単純な疑問以外で「バ」が使われる場合に共通する使用条件

- ・話し手の関与の有無

「バ」は、質問内容に話し手の行動を含む共同決定的な場面よりも、話し手が客観的立場から相手や第三者の行動・事実を確認する場面に適しているといえる。

- ・話し手の心理的態度

「バ」は感情表出を伴う確認表現として強く機能しており、話し手の心理的態度を表す要素として使用される傾向が強い。特に、話し手が予期していた内容と異なる情報を得た際に、驚きや不満といった感情を含みながら確認を行う場合に用いられることが多い。

6 まとめと今後の課題

本研究では、SNS アンケート調査および二回の聞き取り調査を通して以下のことが明らかになった。

- ① SNS アンケート調査と先行研究を踏まえると、少なくとも 1988 年、2009 年から 2010 年、2024 年、2025 年の各時点において沖縄県の若年層で文末詞「バ」が使用されている。
- ② 「バ」はどの文脈、状況においても使用することができる疑問標識ではない。
- ③ 感情的反応や驚きを伴う確認表現として自然に使用される傾向がある。
- ④ 話し手の関与が使用に影響する。

また、青森県五所川原市方言の文末形式「バ」と比較すると、質問者が判断材料を持つ場合に不自然になる点や、感嘆文としても使用される点など、共通する特徴がいくつかあることも分かった。

さらに今回は扱わなかったが、「バ」は、「～のだ」「～のか」に共通語訳されやすい特徴をもつ。林 (2020) のいう「ノ有り疑問」が、判定要求疑問 (Yes/No 疑問文) でも不明項特定要求疑問 (疑問詞疑問文) であっても〔主語＝事実〕と〔述語＝了解/想像内容〕との結合の承認を留保する文構造が事実への意識を保証しているという説明は、この「バ」との近さを感じさせる。

〔あした (の天気)〕は〔雨だろう〕、そうにちがいない→留保
〔あした (の天気)〕は〔雨だろう〕のか？

え？明日は雨なのか (雨だという判断を留保して問いの形をとる)
え？明日は雨ダバ？

バは情報からの判断を一旦留保して確認する形をとって、驚きや意外感、詠嘆的感情が表現されているとみれば、共通語のノ有り疑問文と近いものと見ることができる。

加えて SNS アンケート調査では「バ」が非疑問文用法で見られる「～バーヨ」が 16 例、共通語「そうなのか」に相当する「ダアルバ」「ダァルバ」「ダールバ」が 12 例見られた。これらも「ノダ」「ノカ」で理解されうる可能性を示すが、確認「そうか、そういうことなのか」・得心「これがあなたの作品なんだ」・共感「苦労したんだね」などでは「バ」が成り立たない場合も多く、「バ」と共通語の「ノ」「ノカ」「ノダ」の枠組みからの理解については今後の課題としたい。

「～バーヨ」

A：今から遊びに行かん？

B：今日バイトだばーよ

A：お前どこでバイトしてるば？

A：美味しいばー？

B：美味しいばーよ(^^)！！食べてみ！！"

A：え、やー今何してるば

B：わーはいま車屋ーいんど

A：がちな、そばたべに誘おうしてたばーよ

「ダアルバ」「ダァルバ」「ダールバ」

A：あしたテストってよ

B：だーるば

A：ご飯食べに行く？

B：食べてきた！

A：だーるば！

A：○○結婚したってよ

B：だあるば 😊

上記の例文は、SNS アンケートで得られた例文のうち、理解しやすいものを三つずつ選び、そのまま記載している。

今後は既に行っている SNS アンケート調査や聞き取り調査をもとに、今回は触れることのなかった「バ」の使用者の特徴（性別や世代、職業など）や「バ」に対する印象、使用時期などから、「バ」の待遇的特徴、「バ」の発生時期について明らかにする。また、青森県五所川原市方言における文末詞「バ」を参考に語源を明らかにすること、共通語の「ノ」「ノダ」「ノカ」との対応関係の検討も今後の課題とする。

参考文献

野原三義 1996 「沖縄の若者言葉」『沖縄文化研究』22 pp265-282

田附敏尚 2011 「青森県五所川原市方言における質問の文末形式：文末形式「ナ」と「バ」の用法と意味・機能」『東北文化研究室紀要』52 巻 pp164-146

尚真貴子 佐々木香代子 狩俣幸子 2013 「若者の沖縄の言葉の使用および理解－県内 4 大学に在籍する大学生の場合－」『沖縄国際大学外国語研究』1 巻 1 pp1-25

林淳子 2020 『現代日本語疑問文の研究』くろしお出版